地域の防火・防災だより

青葉 AOBA

本学院の防災に関する取り組みについて

学校法人宮城学院　総務人事課　渡邉　秀俊

本学院は、認定こども園、中学校、高等学校、大学、大学院を有する女子総合学園として、仙台市青葉区の桜ヶ丘を拠点に、教育・研究活動を展開しています。

東日本大震災を契機に、本学院は災害から学生・生徒・園児及び教職員の「心と身体（命）を守る」ことを最大の目標とし、危機管理マニュアル等の整備を行いました。また、災害発生初期の混乱の中で、どのように行動し、どのように対応すべきかを確認・検証するとともに、防災意識の高揚を図ることを目的とする全学院一斉防災訓練を2014年度から実施してきました。具体的には、地震発生後の初期対応訓練（シェイクアウト訓練、一斉避難訓練、学生の安否確認訓練のほか、教職員による災害対応訓練として初期消火訓練や避難所設営訓練、無線訓練、炊き出し訓練などを実施しています。また、青葉消防署様や防災安全協会様にご協力いただき、水消火器や濃煙テントの体験、防災に関するパネル展示や防災グッズの展示、防災に関する講話など、訓練のみならず様々な企画を並行して行っています。

2020年度、2021年度は、コロナ禍により規模縮小を余儀なくされましたが、オンラインやYouTubeによる防災研修を実施。2022年度は「社会経済活動を維持しながら感染拡大に対応する」という国・県の基本方針を踏まえ、感染防止対策を盛り込んだ防災訓練を実施しました。こうした環境の下、避難所設営時の感染対策など、防災上の新たな工夫が生み出されました。2023年度からは、コロナ禍がもたらした防災の新たな可能性を取り入れながら、コロナ禍前のリアルな訓練メニューを継承し、訓練内容の充実を図っています。

また、本学院では、ライフラインが全てストップした後から復旧するまでの間、全学生・生徒・園児及び教職員が生活を維持できるよう、備蓄品の充実を図っています。アルファ米や乾パン、飲料水・生活用水、防寒具等を常備するほか、本学院が避難所として機能するために、プラダンパーテーションや段ボールベッド、簡易トイレ、各種消毒用品などを揃え、プライバシーや感染防止に対応した避難環境を構築できるよう備えています。備蓄食料については、賞味期限が近いものを炊き出し訓練に活用し、ライフラインがストップした状況下での調理方法を学ぶ機会としています。2024年度の訓練においては、これまで教職員が行ってきた炊き出し訓練を、大学生にも体験してもらうことで防災意識の醸成を図りました。加えて、避難時のQOL（Quality of life）の向上を目的として、アルファ米を用いたサバメシ（＝サバイバルメシ）の調理体験を実施しました。

今後は、東日本大震災やコロナ禍の体験を風化させることなく、教職員一人ひとりが災害によりどのような事象が起こり得るのかを想像できるかが重要となります。そのためにマニュアルだけに頼るのではなく、時系列的にシナリオを描けるようになる必要があると考えますので、防災訓練を含む日頃の防災教育の反復により意識付けしていきたいと考えています。